

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	0570208678
法人名	有限会社さくら介護サポート
事業所名	グループホームさくら荘
所在地	秋田県能代市字轟34番地3 (電話) 0185-70-2116
評価機関名	秋田県長寿社会振興財団
所在地	秋田県秋田市御所野下堤5丁目1-1
訪問調査日	平成20年11月5日

## 【情報提供票より】(平成20年10月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)15年9月1日
ユニット数	1ユニット 利用定員数計 9人
職員数	9人 常勤5人(兼務2), 非常勤2人, 常勤換算6.95人

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	1階建ての	1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	23,000円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200円	昼食 300円
	夕食	300円	おやつ 0円
	または1日当たり		円

### (4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	9名	男性 0名	女性 9名
要介護1	2名	要介護2	1名
要介護3	1名	要介護4	3名
要介護5	2名	要支援2	0名
年齢	平均 84歳	最低 74歳	最高 97歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	山須田医院 鈴木歯科医院
---------	--------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

能代市郊外の農村地域の住宅地に建てられ、「自然に地域の中に溶け込んだホームを」という管理者の思いから、近隣住宅と違和感のない洒落た外観となっている。  
入居者のケアに関しては、「在宅生活からの延長線上にある共同生活」という視点から、日課はなく、集団レクリエーションなども行わず、個々人の在宅生活からの連続性を重視した、あくまでも自然で普通の暮らしが維持されるよう支援している。また管理者は自分の現場経験から認知症高齢者を抱える家族の大変さを理解しており、家族へのサポートの大切さを認識した上で、「介護相談」事業も独自に展開している。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題①個別具体的な介護計画②チームケアのための会議に関しては、見直しを行なうなど完全とはいえないものの確実に改善に向けた取り組みを実施している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価、外部評価の意義を理解し、評価を生かした改善に取り組んでいた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は行政・地域住民・家族で構成されており、隔月で定期的開催されている。また管理者は会議が形骸化しないよう努力している。また市町村との連携の重要性が十分に認識されており、必要に応じて連携が図られていた。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	運営推進会議は行政・地域住民・家族で構成されており、隔月で定期的開催されている。また管理者は会議が形骸化しないよう努力している。また市町村との連携の重要性が十分に認識されており、必要に応じて連携が図られていた。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームの外観、また入居者・職員と地域住民のかかわりでは、地域からは「認知症の方が入っている施設」という特別な見方ではなく、あくまでも「おとなりの1軒」といった自然な形で地域の中に溶け込んでいた。

## 2. 評価報告書

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者にとって、安全かつ安らぎの場となるよう、一人ひとりの個性や生活習慣を尊重した「在宅生活からの連続性」に重点を置いた独自の運営理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念は、玄関正面に掲示され、職員が日々の業務においても確認できるよう工夫されているほか、日々の話し合い等を通じた職員全員の共通理解の下で入居者支援が実践されている。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホーム内での行事が地域住民の好評を得て、地区全体行事に拡大した事例などもあり、地域密着型運営がされている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎年度の評価結果を真摯に受け止め、改善に向けて努力されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は行政・地域住民・家族で構成されており、隔月で定期的開催されている。また、管理者は会議が形骸化しないよう努力している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村との連絡は必要に応じて図られており、サービスの質の向上に対する意識の高さがうかがわれる。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族への状況報告、金銭管理状況に関する様式を整備し、毎月はじめに入居者家族に送付されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	これまでに苦情等の申し出はなかったが、家族が来訪の際には、短時間であっても、できる限り家族の要望を受け入れようと努力している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動が、入居者の生活リズムに及ぼす影響の大きさを管理者および職員は十分認識しており、そのような場合には随時職員間で話し合いながら、入居者への影響が最小限となるよう配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会の確保がされ、積極的に参加はされているが、各種研修の回覧が全員に周知されておらず、自発的参加が少ない。	○	今後は、周知方法を再検討し、双方向の情報伝達かつ職員の自発的参加が促されるようなシステムづくりを期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との情報交換の場は特別設定されていないものの、職員個々が有するネットワーク等で積極的に情報収集を行い、入居者支援に活用されている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している	入居時期の判断は家族との話し合いの上で決定されている。また、ホーム施設生活への適応を急がせることなく、あくまでも本人の状況に応じた支援の工夫がされている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食堂、台所および入居者の共有スペースは仕切りのないオープンな設計であり、常に職員と入居者が生活をともにできる環境の中で、本人の思いを知ること努め、共に支えあう関係づくりを築く努力をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの情報のほか、入居後の生活状態を観察しながら、興味・関心、心地よさ、安心感などふまえた個々人に適した支援が実践されている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族からの要望や本人の生活の様子をふまえ、介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは、随時、職員間で話し合われており、評価も実施されている。しかし、カンファレンスが不定期開催であり、また協議結果と介護計画見直しとの整合性が確認できにくい。	○	入居者への支援は介護計画に基づいて実施されるという原則をふまえ、カンファレンスを定期的で開催すると共に、協議結果が介護計画のどの部分の見直しにつながったのかが明確に示せるような記録の工夫を期待する。
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームが有する介護のプロとしての機能を「介護相談」という形で実践している。入居者とその家族のみならず、広く地域にその機能を提供し、地域の福祉拠点となるべく努力している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関との連携の必要性を十分認識し、必要に応じて連携を図っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者の状態変化の際には、今後の経過予測に基づいて、事前に家族等との連絡調整が図られている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、入居者の尊厳に配慮した言葉かけや対応を行なっている。また一人ひとりへの心配りが徹底されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課はなく、その日の天候にあわせて散歩に出かけたり、本人の状態、希望なども汲み取りながら、その人にとって心地よい暮らしを支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事時間はある程度決められているが、早く食べたい入居者には、それに合わせて提供するなど、食事への楽しみを持ち続けられるような支援が行なわれている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しむように支援している	決められた時間帯は設定されておらず、その日の生活の流れの中で入浴時間を設定して、無理なく入浴できるよう配慮されている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの状態を把握しながら、張り合いや楽しみが感じられるようなプログラムが工夫されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候がよければ、入居者を誘って散歩に出かけたり、設置されているバルコニーで、外気に触れ、気軽に近隣の住民と声を掛け合えるよう支援する等、工夫されている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	入居者の居室には鍵はなく、好きな時に自由に出入りできる環境である。また、安全面には十分に注意しながらも、家族や近隣住民が気軽に出入り出来るよう、できる限り施錠しないよう努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地元の消防団や契約している警備会社と定期的に火災予防訓練等を実施し、話し合いを行いながら、避難方法の確認を行なっている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事摂取量および水分摂取量等を記録し、栄養状態の把握に努めている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	「暑くない、寒くないホーム」を目指して、高气密・高断熱設計や、日差しで居室が暑くなりすぎないように設計段階から屋根のヒサシを伸ばすなどハード面での工夫がみられる。不快なおいや音もなく、台所で料理を作れば、そのにおいがホーム内に広がるといった家庭的雰囲気がある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全入居者の居室は南側に配置されており、居室内は採光が非常に明るい。また、自宅で使用していた家具等をおいて、本人が居心地よく過ごせるような工夫が見られる。		

※  は、重点項目。